



立西巻き

尼崎市立立花西小学校
校長 笠井美香
2025. 11. 14 (金)
No.40

〔 校長先生つぶやき、つぶやく（校長だより） 〕

「柿の種の光」



「校長先生、これ育てたいんだけど…。」王子動物園の遠足から帰ってきた1年生が校長室をノックしました。

袋に入っていたのは、柿の種。動物園で拾ったそうです。二人でおしゃべりして、「どこで育てられるかなあ。また、考えてみるね。」と返事すると、うれしそうにお家に帰っていきました。

11月14日。柿の種の光(ひかる)24才。「桃栗3年、柿8年。」柿は実をつけるまでに8年かかるといわれています。小さい実をつけた8才の柿の種の光。思春期真っただ中16才の柿の種の光。社会に貢献し始めた24才の柿の種の光。8の倍数が3回目の今日。24才の誕生日を彼女は迎えました。私は、二人の我が子を「柿の種の〇〇」と呼んでいます。その柿の種の光が生まれた今日のこの日。偶然にも、1年生が私に柿の種を届けてくれました。遠く離れて暮らす娘を1年生が「柿の種」として、届けてくれた、プレゼントしてくれたようで、とてもとても驚きました。

柿の種のわけ

皆さんご存じの柿の種。「柿の種」と言われると、パッケージにはいった子どものおやつとしても、大人のおつまみとしてもおいしくいただけるあの「かきのたね」を思いうかべる方も多いでしょう。そう、子どもから大人にまで「おいしい!」「好き!」と思われるあのおやつのように多くの人に愛される人になって欲しい。そう思って「柿の種の〇〇」と呼ぶことにした…それが一つの理由。

果物の柿。栄養が価高く、古くから「医者いらず」「柿が赤くなると医者が青くなる」といったことわざがあるほどです。その柿の種の中を見たことがある方も多いでしょう。栄養を蓄えた胚乳に包まれ、子葉と茎になる部分の胚。種の中には、育っていく部分と芽を出すまで、栄養を与え続ける部分が一緒になっていて、それは新しい命と命への愛情が一つになっている…我が子と私を表している。そんな気がする「柿の種」。それが一つの理由。



見た目はすごくすごく美しく、美味しそうなのに、食べてみるまでは、甘い柿が渋柿かはわからない。成長過程は長く、8年もかかるというけれど、長い時間がかかる分、その価値は高い。たとえ、渋柿であっても、干し柿にすると、さらに栄養価は増し、価値があがる。育ててみるまでは、わからないけれど、渋柿、柿のいずれにせよ、多くの人に愛される。それが一つの理由。

遠足帰りに届けてくれた1年生の「柿の種」。命がたくさんつまった柿の種。今や、我が子だけでなく455人の子ども達と先生達の「学校のお父さん、お母さん」になった私です。455人の我が子が、人生で辛い苦しいこと、うれしいことが起こったどんな時にも、そばにいて、寄り添える学校の大黒柱でありたいと思います。「455の柿の種」をお家の方、地域の皆さん、先生達とで大切に育てていきたいと思っています。

届けてくれた柿の種。うまく育てば8年後には実をつけるはず。ちょっとだけ、期待して、埋めてみようと思います。期待しすぎると、芽を出せずにいることもあるかもしれないので、適度な見守りを続けていきたいですね。11月14日、柿の種日和のすてきな放課後になりました。